


(別記様式第5号)

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(生)甲第311号	氏名	丸谷 一耕
学位審査委員	主査 副査 副査	中村 修 戸田 清 菅原 潤	
<p>丸谷一耕氏は、2007年4月に本学大学院生産科学研究科博士後期課程に入学し、現在に至っている。同氏は、生産科学研究科博士後期課程に入学以降、環境科学を専攻して所定の単位を修得するとともに、環境教育に関する研究に従事し、その成果を2014年7月に主論文「行政による学校教育用環境資料とごみ分別授業に関する研究」として完成させ、参考論文として、学位論文の印刷公表論文3編（うち審査付きの印刷公表論文2編）を付して、博士（学術）の学位の申請をした。</p> <p>長崎大学大学院生産科学研究科教授会は、2014年7月16日の定例教授会において論文内容等を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の審査委員を選定した。委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会を実施するとともに、最終試験を行い、論文審査および最終試験の結果を2014年9月3日の生産科学研究科教授会に報告した。</p> <p>本論文では、環境教育の一分野であるごみ分別教育について、その現状を調査し、よりよいプログラムのありかたについて検証した。</p> <p>また、家庭ごみの分別をはじめ環境教育全般について、全国の自治体にアンケートを実施して、自治体（環境行政）が学校教育に対して、どのように働きかけているのかの実態と課題を明らかにした。</p> <p>さらに、実践的な研究として、福岡県筑後市において、すべての小学校で2009年から2014年まで6年間継続して実施されてきた「ごみ分別授業」について、その取組内容および効果について検証した。</p> <p>本研究は、環境行政と学校教育の長期にわたる連携という、環境教育の分野においてもほとんど例がない。また、既存の教科(社会科)と連携した環境教育の実践例としても高く評価される。さらに、生徒のごみ分別能力の向上・リサイクル意識の向上という意味においても、社会的に意義ある研究である。</p> <p>以上のように本論文は、学校教育における環境教育、および環境行政による市民啓発手法に関して多大の寄与をするものと評価できる。</p>			

学位審査委員会は、環境教育研究の分野において極めて有益な成果を得るとともに、児童生徒の環境意識の向上に貢献するところが大きく、博士（学術）の学位に値するものとして合格と判定した。